

第 120 回 電子情報通信学会 電磁界理論研究専門委員会
2024 年第 3 回 電気学会 電磁界理論技術委員会
合同委員会 議事録

日時：2024 年 11 月 26 日（火），17:30 ～ 19:00

場所：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ 10 階およびオンライン

出席者：

（電子情報通信学会 電磁界理論研究専門委員会）

川口 委員長（室蘭工大），鈴木 副委員長（都立大），尾崎 幹事（日大），杉坂 幹事（北見工大），長坂 幹事補佐（足利大），伊藤 委員（秋田高等），河野 委員（防衛大），黒木 委員（都立産技高専），田中 委員（岐阜大），圓谷 委員（福岡大）藤田 委員（埼玉工大），宮田 委員（都立産技高専），渡辺 委員（福岡工大），白井 顧問（中央大），廣瀬 顧問（東京大）

（電気学会 電磁界理論技術委員会）

古川 委員長（日大），中 幹事（宮崎大，Web），石田 幹事（九産大），夏秋 幹事補佐（東京大），後藤 委員（防衛大，Web），西本 委員（熊本大），藤崎 委員（福岡工大，Web），道下 委員（防衛大），孟 委員（福岡大）

議題

＜＜通信学会側＞＞

1) 2024 年度 第 1 回合同委員会議事録の確認

【川口委員長】

異論なく認められた。

2-1) 電子情報通信学会英文論文誌 C 小特集号論文について（2025 年 4 月号）

【石田前幹事】

石田前幹事より報告があった。投稿は、Invited 1 件、Paper 8 件、Brief Paper 3 件、内 3 件はフォーマット不適により受け付けず。採録は、Invited 1 件、Paper 3 件、Brief Paper 1 件の 5 件となった。2024 年 2 月 23 日に 1 件投稿（フォーマット不適で受付せず）があり、編集委員の委嘱を 1 か月程度早め、2024 年 3 月 1 日から行った。査読した論文が 9 件で少なかった。Brief Paper の採録基準に新規性などは厳しく見なくていい旨が書いてあるなど採録基準をよく確認して、採録論文の増加を図った方が良いのではという意見や日程の見直しについて言及する意見があったと報告された。

2-2) 電子情報通信学会英文論文誌 C 小特集号論文について（2026 年 4 月号）

【尾崎前任幹事】

尾崎幹事より報告があった。電子情報通信学会英文論文誌 C 小特集号論文（2026 年 4 月号）は例年通り、3 月 31 日締切、延長は 1 週間程度検討している。本件は、HP 掲載済み。1 月末から投稿サイトがオープンするため、第 1 回編集委員会をオンラインで 1 月中旬から下旬にかけて実施予定。

3) 2024 年電子情報通信学会ソサイエティ大会エレンソ学生奨励賞候補者推薦

【尾崎前任幹事】

尾崎幹事より報告があった。異論なく認められた。

選考対象論文および講演は 16 件（推薦枠 2 件）で、6 名で採点した。幹事団で審議し、推薦する学生 2 名に選定した。2024 年 9 月 27 日に候補推薦書を 2024 年ソサイエティ大会エレンソ学生奨励賞選定委員会に提出した。

4) 2025 年電子情報通信学会総合大会シンポジウムセッション提案について 【尾崎前任幹事】

尾崎幹事から報告があった。

総合大会（東京都市大学、世田谷キャンパス）のシンポジウムセッションが、PM(13:45～17:00)の枠で確定した。提案題目は、「学生が興味をひく電磁気学教育の実情・課題・将来および光・電磁波工学への教育展開」であり、後日、依頼講演を打診する。今回のシンポジウムセッションは、今後、教育功労賞等を EMT の方から通信学会の方に賞の推薦を出せるようにするための下地作りという意図を含む。

5) 2024-2025 年度の電磁界理論研究専門委員会活動計画について 【尾崎前任幹事】

尾崎幹事から報告があった。

2025 年 7 月の研究会は EMT 研が主幹。2025 年度は大型の国際会議が続くため、電磁界理論シンポジウムの開催時期は、スケジュールを例年から変更し、11 月下旬～12 月で検討する。

6-1) 2025 年度 7 月研究会（光電波 WS）準備状況について 【杉坂後任幹事】

杉坂幹事より報告があった。

7 月研究会のアクセス、ホテルの状況など説明があった。会議室は 2 部屋であり、会場や開催地については、共同研専（OPE, EST, MWPTHZ, MW）から了承を得ている。委員から、第 2 候補の場合、IEEE AP-S（オタワ、7/13-18）と近いというコメントがあり、第 1 候補で実施することで了承された。

第 1 候補：2025 年 7 月 10 日(木)～7 月 11 日(金)

第 2 候補：2025 年 7 月 17 日(木)～7 月 18 日(金)

6-2) 2025 年度電磁界理論シンポジウム準備状況について 【杉坂後任幹事】

杉坂幹事より報告があった。

日本開催の国際会議が 11 月頃に多数ある。従来の温泉地は物価の高騰（1 回 30 万円以上、宴会をすればさらに費用が掛かる）などもあり、今回は、候補から外した。交通の便がよく、交通費の負担が小さい、関東県内で開催地を考慮した。茨城県が過去に開催されていないため、茨城県県南生涯学習センター（茨城県土浦市）を候補地として挙げられた。他の委員から、国内開催の国際会議の追加情報があり、参加者が集まるように、もう少し開催地や時期について考慮することになった。

7) 2024 年度 EMT 研学生優秀発表賞の選考方法について 【長坂】

長坂委員より報告があり、異論なく認められた。

8) 2024 年度 研究専門委員会（第 2 四半期）活動費収支会計報告について 【長坂】

長坂委員より報告があり、異論なく認められた。

9) ISAP2025 or PIERS2025 関連について 【川口委員長】

川口委員長から ISAP 2025 と PIERS 2025 Chiba に関する事項が報告された。

ISAP2025TPC 委員から、2 つのセッションを EMT 研にオーガナイズするように依頼があった。幹事団からも 5～6 件の論文を出せるようにしたい。外国人の参加を増やしたい意向があり、オーガナイザーに外国人を採用してほしい。まずは日本国内の外国人にアプローチを試みる。ただし、外国人オーガナイザーに変更するわけではなく、外国人オーガナイザーを追加する方針で対応する。ISAP と PIERS の開催が近いので、投稿の準備を始めて欲しい。

PIERS の日程詳細は、まだ報告がない。EMT 研のノルマのような依頼は今のところない。

10) 国際会議(IEEE AP-S & URSI 2027 in Kyoto)に向けた取組みについて 【川口委員長】

川口委員長から報告があった。

特に情報はなく、ISAP 2025 と PIERS 2025 Chiba が終わってから、本格的に着手予定。

11) 2025 年度 電磁界理論研究専門委員会委員構成(案)と交代について 【川口委員長】

川口委員長から報告があった。

川口委員長の後任の新しい副委員長と尾崎幹事の後任の幹事を決める必要がある。

12) その他

川口委員長から以下の報告があった。

ソサエティ会長が将来像を相談したいと専研の委員長に連絡があった。3 年後くらいに会員が 4 割くらいになる試算があり、今の予算を維持することは難しい。そのため、講習会開催などで収入があれば、15%徴収されるようになる予定。予算の減少に伴い、専研の合併なども検討されている。

≪電気学会側≫

1) 電気学会 A 部門 活動資金等について (電磁界理論技術委員会) 【古川委員長】

古川委員長から報告があった。

2024 年 6 月 1 日にメール報告があり、令和 6 年度研究活動補助金は実質交付金額が 25,000 円交付された。特別講演講師への謝金は、技術委員会で上限 20,000 円 (税込 22,000 円) であり、補助金から補填することで、特別講演の講師への謝金を 1 人 3 万円支出した。来年度の補助金額見込みは、約 26,000 円であり、来年度も今年度と同様に支出する予定。

来年度の活動資金は、電気学会の財政状況から予算変動の可能性はある。

2) 電気学会『優秀論文発表賞 (基礎・材料・共通部門表彰)』規程について 【古川委員長】

古川委員長から報告があり、規程について認められた。

3) 電気学会優秀論文発表賞 A 賞および基礎・材料・共通部門表彰候補者選定基準について

【古川委員長】

古川委員長から報告があり、選定基準について認められた。

4) 電気学会非会員の研究会参加費取り扱いに関する検討依頼について 【古川委員長】

古川委員長から報告があった。

本部表彰 A 賞は、電気学会の会員でなくても受賞可能であるが、会員数を増やす目的で会員選定の対象とするか、技術委員会の方でも議論して欲しい依頼があった。本技術委員会としては、これまで通り、本部表彰 A 賞は会員に限定しないと報告することになった。

5) 2025 年 1 月光合同研究会の企画シート

【中幹事・石田幹事】

石田幹事から報告があった。研究企画シートの日時の情報などを通信学会側と再確認した。

学会誌に研究会会告がなされていたが、今は WEB のみで会告されている。スケジュールが決まり次

第、信学会側から情報を提供してもらいたい。

6) その他

尾崎幹事より、今後の収益事業について議題が挙がった。

EMT 研として、収益を上げる手段を考案していく必要がある。今後、AP 研の実施している講習会やスクール等を開き、講習代やテキスト代などで収益化することを真剣に考えていく。外部の方が参加されるようにしていく。また、国際会議に EMT 研は協力しているので、何らかの形で EMT 研に還元されないか検討する。